

平成30年度 第1回菊川市地域公共交通会議

会 議 録

| | | | |
|-----|-----------------|-----|----------------------------------|
| 場 所 | 201・202会議室(本庁舎) | 日 時 | 平成30年10月1日(月) 午後2時00分～午後3時20分 |
|-----|-----------------|-----|----------------------------------|

報告事項

- 1 開会 (鈴木地域支援課長)

- 2 あいさつ (赤堀副市長)
事務局紹介

- 3 議事
(1) 平成29年度菊川市コミュニティバスの利用実績等について(報告)
(2) 平成30年度の取り組み状況について(報告)
(3) 地域公共交通網形成計画【中間報告】について(報告)

- 4 その他

(次頁から議事録を掲載)

議 事 録

1 開会

- 事務局
地域公共交通会議を開催する。

2 あいさつ

- 赤堀副市長
《あいさつ》
- 事務局紹介
《事務局及びコンサルタントの紹介》

3 議事

- 事務局
これより議題に入るため議事の進行については、菊川市地域公共交通会議設置要綱第6第1項の規定により会長に議長をお願いする。

(1) 平成29年度菊川市コミュニティバスの利用実績等について（報告）

- 事務局より報告
- 委員
実績について、平成29年度の運賃収入が205万円で、利用者数が単純計算で1,600人ぐらい増えているにもかかわらず、運賃収入が減っているのはどういうことか。
- 事務局
減免の方が多く利用していただいたので、運賃収入が増とっていない状態である。
- 委員
減免というのは、無料の人、身障者の人なのか。
- 事務局
はい。無料で乗っていただいている。
- 委員(学識経験者)
今あった質問の件で、減免の方が増えたのは何か理由があるのか。
- 事務局
利用者数について、有料と無料の人数を数えてもらっていないが、ドライバーの方が、お金を入れたかどうかは必ず確認しており、手帳を見せて乗車されている方が増えているという、ドライバーへの聞き取り調査によって報告を受けている。
- 委員(学識経験者)
何か宣伝でもされたのか。特別減免される方が増えたということが悪いことではないが、宣伝をして増えたということであれば、減免を受ける方だけではなく、一般の方にも広げていくヒントにもなると思う。せっかく増えたのであれば、その理由を知れるといいかなと思った。
- 事務局、
具体的な何が要因で減免の方に利用していただけるようになったかというところまでは、現状では分

析はしていないが、先ほどの報告3でも紹介させていただいた「コミュニティバスの乗り方教室」の中では、「減免の対象はこういう方です」ということで、本日配布したコミュニティバスのコース・時刻表の表面の「運賃の免除」の方を表示していることは案内させていただいたので、そういうところから利用が増えたかもしれない思っている。また、利用者増加に対する取り組みは進めてまいりたい。

○委員

今の話に関連して、マイナス要因をつぶしてプラスにするというのが一つある。それともう一つはプラス要因をさらにプラスにする。減免の人が増えた。これはプラスだから、そのプラス要因をもっと増やせば、乗る人ももっと増えるのではないか。

○委員(学識経験者)

運行実績のP.7復路菊川病院→布引原北公民館ルート of 1便がかなり1日当りの利用者数が少ないようだが、このことについてこれまでも議論されているのか。この年に急に下がったのか。そのあたりを教えてほしい。

●事務局

昨年度の利用についても、この便の利用は46人であった。病院からの帰りの便ということで、まだ診療が始まって間のない時間の出発となっており、利用が少ない状況が続いている。

○委員(学識経験者)

継続している理由は何か。病院で利用が少なくてもなぜこの時間にしたのか。

●事務局

奈良野・布引原コースの第1便が、布引原北公民館から病院への早い時間に行く便があり、菊川病院からの便は、その便が病院から帰る便になり、まだ診察が終わっていないので、利用が少ない状況となっている。

○委員

その便だけやめるといふわけにはいかないのか。

●事務局

奈良野から病院へ行き、戻る便であるため、これまでやめる検討はしてこなかった状況である。

(2) 平成30年度の取り組み状況について(報告)

●事務局より報告

○委員

平成30年度の取り組み状況について報告をいただき、また広報でも周知しているということで非常にいい内容だと思うが、この結果で、菊川市の公共交通に、何をどう取り入れていくのかという方向性というか、何を見出すかなど検討されているのか。PRをするなど書かれているが、今年度、何かにチャレンジしようとしているのか、そういう具体的な施策があるのかどうか。もしあるのであれば、この会で紹介していただき、皆さんで審議していただくことが大事ではないか。

●事務局

目的としては、利用者促進と今年度形成計画をつくるので、いろいろな意見をいただきたいと思い、取り組みを行っている。

○委員

先ほどの実績をみても、ある区間でお年寄りの方が金額は別にして増えたということも、今までも事務局から説明があった基本的にはいろいろな出前講座を、サロンを中心にやっているという実績がある。そういうところで効果が波及しているのであれば、同じようなことをさらに別の階層もしていくなど、

何か具体的な施策を、事務局としても、また会議としても提案して、各自治会や住民の皆さんに認識を新たにしてもらい、活用してもらおうということをやっていくというのが、この会議の意味だと思う。その辺も並行して進めてもらえればありがたいと思う。

●事務局

貴重なご意見ありがとうございます。今後、そのように展開できるように努力していきたい。また、委員の方から提案いただければ、そういうことも取り入れていきたいと思う。

○委員

フューチャーセンターを開催して、こういう意見がありました。28人集まり、こういう意見を言ってもらいました。結構な話ではあるが、フューチャーセンターを開催した理由、意味合いとして、いろいろ意見を求める。求めたからには、やっぱりそこから何かをやらなきゃ意味がない。たとえば、ここにあるように観光利用やイベント対応でやったらどうかという意見があったら、それをやってみるとか、やろうとする計画があるとか、やったというだけでは何もならない。意見を生かさないといけないと思う。そうしないと開催した意味がない。

●事務局

きくがわフューチャーセンターで、若い世代の方から多くの意見を伺っているが、ここで伺った意見については、これから策定していく公共交通網形成計画に、具体的な施策を盛り込んでいくことになるので、その中にどのように反映できるのか工夫しながら考えていかなければならないと考えている。

○委員

報告事項2に、平成30年度コミュニティバスの運行に関する報告として、現在、運行委託会社CMSに平成31年3月31日まで委託となっているが、次回の委託会社の決定は、いつまでに決定されるのか。

●事務局

日程はまだ決まっていないが、年度末ぐらいを予定している。

○委員

選定に当たっては、どういうことを基準して、最終的な決定するのか。

●事務局

入札なので、金額で決定する。

○委員

金額も結構だが、是非、入札条件・項目に、こういうことをやって乗客を伸ばすとかのアイデアを持っているなど、アイデアのところも入れてもらって評価するなど、単に入札だけだと受ただけで人が少なくても、その金額で赤字が出ようとその事業者は一切責任がないので、いい意味でそのあたりのアイデアを出してもらって、委託業者も一体となって乗車人員の増加に努めるようなことも評価の対象としたらどうか。金額だけでなく、そういう項目の入れていただけるといいと思うので、ぜひお願いしたい。

●事務局

他市の事例をみると、クリスマスには運転手がサンタの帽子をかぶったり、制服をきちんと着るなどを徹底するなど、いろいろなことで、利用促進を図って事業者の方で工夫してもらっているという事例も聞いている。そういうところも含めて、今後、運行委託事業者を決めるにあたっては、いただいた意見も参考にさせていただきたいと思う。

○委員

今年度は、31年度以降の公共交通をどうするのかという結論を出さなければならない。今、委託してい

ろいろな資料を整えているところである。多分12月ぐらいまでには取りまとめができて、次回の会議では皆さんには、新しい資料の下で、32年度以降の公共交通はどうかということの結論を3月までには詰めなければならない。それを踏まえて、今後もこのような形で進めていいのか、向こう5年間の網計画というか、市でやっている第2次総合計画に則って公共交通を向こう5年どうしていくかということのまず32年以降を見据えた皆さんの意見の集約を30年度しなければならない。いろいろな意見があると思うが、まだ資料が出そろっていないので、皆さんに煮詰めてもらうには時期尚早かなと思う。そんなことも踏まえて、今日は中途半端になって申し訳ないが、資料が全部そろったところで、今までのことを振り返って、どんなふうに展開していくのか、公共交通のあり方がこの延長でいいのかどうかも含めて検討してもらおうつもりなので、ぜひお願いしたい。

○委員

報告事項3で、出前行政講座で、実績として平成29年度226人の参加をいただいたという中で、自分も六郷の方に参加させてもらった。出前講座は、いい意味でやる側からの方からは来てくださいというやり方と押しかけていってやるなど、押しかけていくぐらいの形でぜひやってもらうといいと思うので、ぜひお願いしたい。

●事務局

今年度も押しかけていきたいと思うので、ぜひお願いしたい。

(3) 地域公共交通網形成計画【中間報告】について (報告)

●事務局より報告(市及びコンサルタントで報告)

○委員

今、形成計画の説明があったが、現在の実態だけで、具体的施策は次回示すということなので、自分なりの意見を述べると、交通手段に困っている人は、本当にコミュニティバスは必要不可欠なもので、コミュニティバスがなくなると困ってしまうということから、利用者ニーズというものを具体的施策に生かしてもらいたい。考えたのは、ターゲットは、障害者、独居の高齢者もしくは高齢者だけの世帯の人、免許返納者、最後、外国人。外国人の方は免許を持っていない人が多いので、もっと外国人の方に乗ってもらうよう、コミュニティバスの路線・時間帯を考えてもいいのでは。

さらに、フューチャーセンターをせっかくやったので、生かさないといけないと思う。ここでどんな意見が出たか。資料では4行しかない。写真だけ見てもわかるように、たくさん意見が書いてあり、いろいろな意見が出たと思う。したがって、フューチャーセンターで出た意見を、次回箇条書きでいいので出してほしい。

●事務局

先ほども言ったが、いろいろな人から意見を聞きたいということで、フューチャーセンターの方に公共交通について提案させていただいた。今回の公共交通網形成計画の中に取り込んでいきたいと思うし、当日は模造紙を使ってやったので、その模造紙を持ってきて、次回の時に発表したいと思う。

○委員

模造紙でなくてもいいので、A4 1、2枚で、出た意見をずらずら箇条書きで出してもらえばよい。これは若者の意見で、今後の施策にいいものではないと思うが、いかがか。

●事務局

先ほどの報告事項4で、4行ぐらいにまとまっていたが、意外と若い方の意見として、重複するところがあり、グループとして分かれていたが、やはりツイッターの利用があった方がよいかに集約されるところがあった。主だってこの4つの意見が多かったので、このような記述とさせていただいた。資料としては、ご要望のとおり、箇条書きにしたように出せるように支度を進めたい。主だった意見としてはこの4つがほとんどだったというようにご理解いただければと思う。

○委員

公共交通のことなので、コミュニティバスの話のこともあるが、形成計画のP.23にある(4)タクシーがある。免許返納者の方は、運賃を10%割引くとあるが、その利用の資料がもしあれば、割引対象がどのくらい利用しているのか人数的なものをどこかで報告してほしい。

次の(5)自家用車有償運送について、4事業者で7,662人と大勢の方が利用されている。コミュニティバスと同様に、細かく説明して分析いただきたい。コミバス・タクシー・自家用車有償運送のコラボというか協力し合っているのか、またここはタクシーがすごく利用されている、自家用車有償運送は、こんな人が利用している、全ての人が利用するところと公共交通となると思う。そういうことから、この2つについても、もう少し掘り下げていただければありがたいと思う。

●事務局

タクシーの免許返納者の割引制度の利用状況については、今後、事業者へヒアリングをさせていただき、事業者の方にお聞かせ願えればと考えていたので、その報告はできると思う。

また、自家用車有償運送のうち、福祉有償運送は、利用状況については、詳細なものを福祉課からいただいた中で利用分析をして、どなたでも利用できるコミュニティバスと福祉有償運送については、利用される方が異なることから、役割分担を明確にしていければと思っている。

○委員

要望も含めた話になるが、先ほど報告事項でコストというか費用の話があったが、今市民1人当たり622円、522円という話があった。市として、私たちが一番望むのは、公共交通は必要不可欠な手段だと、ここにいる皆さんはそう思われている。とは言って、費用としてどこまで許容されるのかということが別の話としてあると思う。ぜひその辺を忘れなく、これからいろいろ考えるときにしていきたいと思う。単純に、加茂地区でいうと、1世帯当たり2.78人なので、世帯当たりで1,600円ぐらい年間負担することになる。そういうことを考えた時に、まず副市長もおられる。そういったものが、住民負担増にならないようなことをまず考える。もう一つは、市として借入金として債務を増やさないとところが2つのポイントとなる。そういう中で、何ができるのかということもいろいろと考えて、今方策の話しかしていないが、何やるにしてもコストはかかるので、その辺も十分考えていく。例えば、(A)の費用において、委託料、需用費、会議委員報酬、自賠責保険料、重量税とあるが、基本的に自賠責保険料、重量税は固定費と考えてもよいので、その他は、ある意味変動費だと思う。その費用をどう減らすのかをというようなことをこの会議で考えていかなければならない内容だと思う。そうした中で、皆さんに愛される公共交通、ましてや税負担でも皆さんに優しい軽い公共交通というあるべき姿を追求していくことがこの会だと思う。そういうことも頭において、是非、副市長には大変だと思うが、いろいろな形で住民の税負担が増えないように、それを施策にどう生かすかということも含めて、市の方針として、次年度に向けてまとめる内容を総括していただければありがたい。

●事務局

貴重な意見ありがとうございます。もちろん、市民サービスを提供するものとして、コストを意識することは、必要なことだと認識している。今後、計画の後半部分を策定していくにあたり、費用負担も含めて比較できるような資料も出して、この場で皆様の意見をいただきたいというふうに考えている。前回の会議で、事務局が視察に行った養老町の説明をさせていただいた際に、養老町では、コストは2倍になったが、利用者数は増えたからそれによいという判断をされているという状況もあった。もちろん、安価にサービスを提供することは重要なことではあるが、それで利用されない公共交通ではいけないので、そのバランスを必要と考えている。それにつきましては、皆様に資料を示す中で揉んでいただいて、菊川市にとって一番いい公共交通のあり方を、公共交通網形成計画を策定するにあたり、進めていきたいと考えているので、次回以降、忌憚のない意見をいただきたい。

○委員

地域公共交通網形成計画の説明と、今の質問に関連して、先ほどの説明の中で、高齢者のメッシュと公共交通利用圏域の重ね合わせで、住民は住んでいるが、交通機関がない赤点線で示されたエリアの地域がある。自分が思っている公共交通機関の役割というのは、今後は高齢者がどんどん増えていく。自分が住んでいる南部の小笠南だが、高齢化率が高いのに利用状況をみると低い。なぜこ

んなに低いのか調べてみたら、人口はあるがそこまで車が行っていない、コミュニティバスの停留所まで行くのが大変というところが非常にたくさんある。停留所に近い人の何人かに聞いてみたら、結構使っているという人がいる。利用状況は少ないというが、そこまで行くのが大変だから誰かに車に乗せてもらって病院などへ行くという人も結構いる。そういうことから、利用が少ないから、コミュニティバスを走らせなくなるから、利用を上げてくださいというのは、安直すぎる。この圏域はあって当然だと思っている。それは、交通難民は、病院に行く交通手段がない。それを代替するためには、家族や近所づきあいだけでは、これからは不可能になってくる。自分は買い物支援をやっているが、買い物支援をやっていることで喜んでくれている人がいるが、買い物支援を受けるために申し込みをすることになるが、そのボランティアの人に申し訳ない、迷惑をかけてしまうという雰囲気もある。そのため、支援を受けたいけど、遠慮してしまうということがある。積極的に申し込んできてもらう人には喜んで利用してもらっている。そういうことから、計画策定に当って、利用者が少ないからこの路線はカットするというのは、絶対にやめてほしい。そこの高齢者の状況を確認してなるべく利用が高まるような運行方法・運行計画を策定していただいて、利用率を高めていただくことを経費抜きで考える。そうでないと、買い物難民や病院に行きたい人が、行きたいけれども我慢するような状況が出てきてしまう可能性があるということを感じている。その対応とさらに利用率を向上させる方法も検討してほしい。難しい要望だと思うが、よろしくお願ひしたい。

○委員

私も同じようなことを考えている。今の交通路線は、点と点を結ぶそういう路線を考えて解に、そこから脱しえないと思う。本当は、点と点を結んで路線という考えではなく、サークルと線があって、またサークルがあるという考えに発想を変えないと、今のような問題は吸収できないと思う。そのサークルの運営をどうするのかというのは、私案ではあるが、これまで3回出させていただいた中で私案だが、今菊川市でもいろいろな企業が入っている。どこの企業もお抱えのバスとかを持っている。そういうバスというのは、朝帰りは運行して、社員を送迎しているわけである。日中のそれ以外の時間は空いているのが多いのではないか。そういうのを活用すれば、サークルをそういうもので運営すれば、枝線ではないが、そういうのを生かして、幹線として線で結ぶという考え方に発想を変えていかないと、今言っているような年間で数人しか乗らない所を、コストありきで、そういうところをなくすというのは決して良くないと思う。公共交通という考え方として。そうすると、もう点と点を結ぶのではなく、面と面を線でどう結ぶかということを考えていく公共交通に発想そのものを変えないとまずいと思う。そのためのリソースとして何を使うのか、今ある既存のものではなくて、ここにある企業のバスとか、その他公共交通ではないバスのようなもので提携しているものとあると思うので、そういうものを使って拡大し、増やすということもやっていかないと形にならないと思う。これが私なりの案である。今まで、この会議に出てきて、そういう結論を感じている。

●事務局

内容の濃い意見を、2人の委員から意見をいただき、ありがとうございます。今後の公共交通網形成計画の具体案を考えていく中で、もちろんそここのところも考えていきたいと思っている。今日は、示すことができていないが、次回以降の資料の方に反映させていければと思っている。今、市内における軸と面という話が出たが、菊川市の菊川駅からしずてつジャストラインが、浜岡営業所まで走っている菊川浜岡線もある。こちらも非常に重要な地域の足である。これがあるからこそ、菊川市に通ってくれる高校生や企業への勤めの方もいるとか考えている。この辺りも軸として、これからのどのようにして維持していくのかということを検討の中に入れて、次回以降示していきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

○委員

先生に最後に、まとめとして意見をいただきたい。

○委員(学識経験者)

皆さん、いろいろな意見を発言していただき、自分自身にも勉強になった。いくつか出た意見についてコメントさせていただく。企業のバスを利用するというのは、非常にいいアイデアだと思う。愛知県の大口町では、既にやっている。大口町には企業が多くあるので、駅に来た通勤者の方がバスに乗る

わけだが、その帰りに駅まで住民を乗せていくというような使われ方をしている。その場合は、企業のスタッフが乗った人数をカウントして、その分を協賛金として入れている。そうすることで費用の方を賄っているので、町としての負担が多くなって済む。それによって、町から外へ出ていく方の足となっている。先ほどの軸と枝という考え方も非常に大事である。今事務局から話もあったが、しずてつが走っているのも、まずはこれをどう生かしていくかということが非常に大事である。もし、これが今、なくなってしまうと、これを市が代替することは非常に難しいので、これを生かしていく、しずてつにもWinとなり、市としてもWinとなるように。その時に必ず大事になるのは、軸と枝という考え方をした時には、乗り換えが生じることがある。皆さんが乗り換えて乗ってもらくと、軸から枝、枝から葉の部分で、今の費用のままで本数を増やしたり、もう少し遠くまで伸ばしたりもできるので、皆さんが乗り替えをしてくれるのであれば、空白地域の所まで伸ばしていくということも可能となる。ただ乗り換えというのは、非常にハードルが高い。他の地域で、乗り換えができるようにしたが、利用者が一気に減少した例もある。うまくやっているところもある。愛知県の豊川市では、市民病院を拠点にして乗り換えをしてもらうことで、路線バスとコミュニティバスが連携しあって、全体として利用者が増えた例もある。やり方にもよると思うので、そのあたりは、公共交通のルートを考えるとともに、乗り換えをする整理も必要。そこで成功したのは、市民病院が人の集まる場所になっていたということで、乗り換えするのもしやすかったということがある。そのあたりもセットで考えていく必要があると思う。私もできる限り色々な事例を参考にしながら、協力できることがあれば、させていただこうと思っているので、皆さんも協力のほどよろしく願いたい。

○会長

これで議事を終了する。皆さん、ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返す。

●事務局

その他の部分として、事務連絡させていただく。次回の会議は、12月頃を予定しているので、日程調整の方をさせていただきたい。決まりましたらご通知を差し上げるのでよろしく願いたい。長時間にわたり、熱心に議論ありがとうございました。これをもって閉会とする。

以上